

徳島県立近代美術館企画交流室長  
森 芳功の



美術の時間  
を  
楽しむ  
ための  
ヒント

# 美術をたのしむ、美術館をたのしむ

## その102 「ベルギー近代美術の精華展」見学風景

### ベルギーの近代美術

徳島県立近代美術館では、日本とベルギーの国交樹立一五〇周年を記念して、「ベルギー近代美術の精華展」を開催しています（二月一日まで、担当・友井伸一・安達一樹上席学芸員）。姫路市立美術館、島根県立美術館を巡回し、当館が最終会場となります。

ベルギーの建国（独立）は一八三〇年ですので、まだ、二〇〇年に満たない歴史の国といえます。ですが油彩画の技術が生まれたのが現在のベルギーにあたる南ネーデルラントであり、中世のファン・エイク、バロック時代のルーベンスなど、巨匠たちが活躍した美術の伝統豊かな地域・国なのです。今回の展覧会はそのなかでも、オランダから独立した一九世紀から二〇世紀半ば頃までの作品を紹介しています。

ベルギーは、北部のフランドレン（フランドル）地方がフラマン語（オランダ語の一種）圏、南部ワロン地方がフランス語圏となっており、地域間の対立とともに文化的多元性を生み出しています。展覧会を見ても、隣接するフランス、オランダ、ドイツから複雑

な文化的影響を受けて表現を形づくってきた歴史を垣間見ることが出来ます。

たとえば、第一章「いま見えているこの世界…レアリスムから印象派」では、フランスからの影響が強く感じられます。レアリスムの画家クールベの作品が首都ブリュッセルのサロンで公開されたことから、働く人の姿を表す作品が盛んに描かれました。一日の仕事

を終えて家路につく男性を描いたレオン・フレデリックの〈チヨーク売り〉（一八八七年）もその一つです。地域によって、他国からの影響が異なるのも興味深い点でしょう。一九世紀末二〇世紀初頭にドイツで起こった表現主義は、色彩や線を激しく用いた傾向ですが、フランス語圏でなく北部のフランドレン地方で活発に表されました。逆に、フランスの芸術運動として

はじまったシュルレアリスムは、フランス語を話す人が多いブリュッセルや南部のワロン地方が中心になるなど、地域で異なった動きを見せています。伝統と結びつけて独自の表現が生み出されたようすも知ることが出来ます。中世のボッス、ブリュッセルに見られる幻想性が、ジェ

ームズ・アンソールの表現主義的な画面や、シュルレアリスムのルネ・マグリットらにつながっています。一九世紀に働く人々を描いたレオン・フレデリックが、キリスト教による愛のもとの平等を表そうとしたのも、カトリックが強いベルギーならではの特徴でしょう。

来館した方のアンケートを読ませていただくと、好評なのが分かります。「ゆっくりと一つ一つの作品を鑑賞でき、とてもいい時間をもてました。デルビルの作品が特に印象に残りました」（六〇歳代）、「近代美術をゆっくり見せていたでいて、デルボー、マグリット、最近まで活躍された方々の作品に興味を持つことが出来ました」（七〇歳代）、「印象派の作品がとても美しかったです」（二〇歳代）など、それぞれ惹かれる作品を見つけて楽しんでるようすが伝わってきます。

今回の展覧会で、ベルギー美術の歴史を俯瞰するのもいいですし、お目当ての作家の作品を鑑賞するのも楽しい時間になるはずですよ。

### 五歳児さんの鑑賞

保育所や小学校の子ども

たちも観に来ています。印象に残った見学についてご紹介しておきましょう。

J保育所の五歳児さんと、ジャン・デルヴィル（レテ河の水を飲むダンテ）（一九一九年、図版）を観たときのことです。子どもたちは、三歳の頃から出前授業や美術館見学を何度も行っており、鑑賞を楽しむ経験を積み重ねています。自分の感想や意見を発表し、まわりの子どもをよよく聞き、受け入れる雰囲気が出ています。そのため、一〇人ほどのグループに分かれて見学したときも、活発に意見を交換していました。驚いたのは、それらの意見が集まってなかなかいい見方ができたことです。

まず絵の前に座って、気づいたことを発表してもらいます。「おばあさんがいる」という声が最初にあがりました。その子は、画面右の赤いガウンのような服を着た人物を「おばあさん」と考えたようです。その人が口から「ゲーをしてる」という意見や、「水道の水を飲んでる」という意見が続きます。「水道の水」というのは、公園の水飲み場をイメージしたようですよ。左側の人物が白い色をしているので、作り物

のように感じたようなので  
す。

ちなみに、この保育所の  
子どもたちは、自分の意見  
や感想を話すとき、絵の前  
に出てきて部分を指さして  
くれます。他の子は、作品  
と発表した子の考えを重ね  
ながら聞くことができるい  
い習慣です。

その後は、左側の人物を  
指して「女の人」とか、「光  
っている」「神様」という  
意見が出され、さらに、頭  
に「花がある」（飾ってい  
る）とか、「ピンクの花を  
持っている」など、発見し  
たこと教えてくれます。ま  
た、右側の人は、髪の毛が  
短いので「男」という子  
がいたり、髪の毛を「後ろで  
くくっている」のでやはり  
女の子という子もいたりし  
て、意見交換が活発になっ  
ていきます。

そして、「白い花がある」、  
「ピンクの花」が咲いてい  
る、「水がある」「まわり  
が緑」などという意見を聞  
き、一〇分くらい楽しんで  
いると、最後は、「男の人



レオン・フレデリック (チョコレート売り)  
1887年 姫路市立美術館



ジャン・デルヴィル (レテ河の水を飲むダンテ)  
1819年 姫路市立美術館蔵

が女の人から水をもらって  
いる」ようすをみんなが理  
解できるようになっていま  
した。

この作品は、ダンテ『神  
曲』の一場面を絵画化した  
ものなのですが、子どもた  
ちは画面を観察し、よく自  
分たちの見方をつくってい  
ったものだと思います。み  
んなで作品を見ていくには、  
人の意見を聞いて納得した  
り、他の意見に刺激されて  
次の観察に進んだり、意見  
を付け加えたりする必要が  
ありますが、それができて  
いるのです。

この日行ったのは、対話  
型の鑑賞プログラムでした。  
楽しい鑑賞を積み重ねてい  
ると、五歳の子どもでも、  
対話型でこのように見方が  
進んでいくのだと実感する  
機会となりました。

### 小学二年の成長した姿

別の日に地元の小学校二  
年生の見学がありました。

集まった子どもたちに挨拶  
したとき、知っている顔も  
ちらほら見えます。これま  
で保育所の美術館見学で会  
ってきた子どもたちです。  
手を振りながら、「亀さ  
ん」「竹ちゃん」「もつく  
ん」と、前に並んでいる美  
術館職員に声をかけてくれ  
る子もいます。保育所時代  
に鑑賞を楽しんだ子どもた  
ちが小学生になって見学に  
来てくれているのです。

そのような子どもたちは、  
鑑賞活動をリードし、「レ  
テ河の水を飲むダンテ」を  
見たときも鑑賞がどんどん  
進んでいきました。作品を  
よく観察して自分の意見を  
つくっていく流れは五歳児  
さんと同じなのですが、成  
長が感じられます。

たとえば、画面の男女が  
川を挟んで両岸に立ってい  
ることや、男の人の足元に  
バラの花、女の人の下に白  
い百合の花が咲いていて、  
それぞれが相手の足元の花  
を差し出していることまで、  
みんなが気づくことができ  
ました。対話型でやりとり  
する途中で、男性のポーズ  
が勢いよく壁に手を伸ばす  
「壁ドン」に似ているとい  
う楽しい意見を挟みながら、  
あれこれと見方を交換し、

グループで観察を深めてい  
ったのです。

もちろん作品鑑賞の楽し  
み方は一様でなく、作品の  
種類によっても異なりがあ  
ります。しかし描かれた題  
材が比較的はつきりしてい  
る作品で、この小学二年生  
のように読み込むことができ  
れば、なかなかのものだ  
と思います。

物知りの大人なら、「レ  
テ河の水を飲むダンテ」と  
いうタイトルから、これが  
イタリアの詩人、ダンテの  
『神曲』「煉獄篇」の一場  
面であることを知り、そこ  
から画家の表現意図を解釈し  
たり、自身の思いを込めた  
りする人がいるかもしれま  
せん。子どもたちの見学で  
は、むしろそこまで求めま  
せんが、画面をよく見ると  
いう点で、子どもたちはそ  
の直前まで来ています。

子どもの頃からさまざま  
な種類の作品を鑑賞してい  
ると、成長し知識を得たと  
き、内省的に深い解釈がで  
きる可能性も感じます。私  
は今回の見学で、子どもた  
ちの鑑賞の力が伸びている  
のを知ってうれしくなりま  
した。

ただし、いつも同じよう  
に案内がうまくいくわけ  
ではありません。同じ展覧会  
で「見つけたものを教え

て」といっても、自由に意  
見や感想を述べる自信がな  
く、発表が少ない見学もあ  
ります。可能性とともに、  
地道に楽しい鑑賞の機会を  
つくることの大切さを感じ  
る展覧会となりました。

「ベルギー近代美術の精  
華展」は二月一日まで  
開催。所蔵作品展は、年末  
に特集など展示作品が大き  
くかわります。

### 12月の催し

■特別展「日本・ベルギー友  
好150周年 ベルギー近代  
美術の精華展」  
11日〔日〕まで

■所蔵作品展「特集 戦後日  
本画の人間表現」  
18日〔日〕まで

・きんびセミナー「美しき姿と心  
の形―戦後日本画が求めたもの」  
4日〔日〕14時〜15時30分、講座  
室（3階）、申込不要、講師・森  
芳功（企画交流室長）  
・子ども鑑賞クラブ「日本の巻」  
17日〔土〕14時〜14時45分

■所蔵作品展「特集 伊原宇  
三郎に見る西洋絵画の理論と  
技法」  
23日〔金・祝〕から

・テーマで知る名品「伊原宇三郎  
に見る西洋絵画の理論と技法」23  
日〔金・祝〕14時〜14時45分  
※19日〔月〕〜22日〔木〕は展示  
替作業のため展覧会は行っていま  
せん。

※今年の展覧会は28日〔水〕まで、  
新年は1月5日〔木〕からです。